

大阪万博・カジノと大阪での市民運動

——疑惑ふかまる格安賃料・謎の業者選定——

藤永 延代（大阪自治体問題研究所副理事長）

2024年12月14日、15回目になる女性パレードは真っ赤なグッズを身に着け、賑やかに・キラキラと行進します。「愛もないのにアイアール!」「危ない万博子どもを行かすな!」「万博経費は能登に回そう」。沿道から若ものも入ってきます。「うちに借金残さんといて!」と。

2013年、私を含む女性4人から始まった大阪の「カジノ誘致反対運動」は、11年目になり、運動の幅は大きく広がっています。

私たち「カジノ問題大阪ネットワーク」は70回を超える定点街頭宣伝、国・大阪府市への反対署名、行政交渉、集会・シンポ・講演活動、関連9団体中心に始まった「住民投票条例制定運動」では、規定を上回る23万人もの賛同を得て府政を追求、維新独裁府議会はこれを否決しました。しかし、私たち市民運動は、公開請求で得た「行政情報」を手に、「住民監査請求」「住民訴訟」へと、住民自治の行動をすすめています。

2024年11月22日、久しぶりに視察した「夢洲・万博会場」。残念ながら「円形リンク通路上」のみでしたが、制限のある中でも、これまで指摘してきた問題点を確認することが出来ました。

リンクの中は海外パビリオン予定地。遅れているとは言え、日本の建築技術をもってすれば、何とか間に合うという状況。気になったのは、ガラス材とドーム型の多いことと水はけ。ちょっとした台風や線状降水帯に勝てるのかな～。夢洲は遮るものがなく、海風が強いからです。

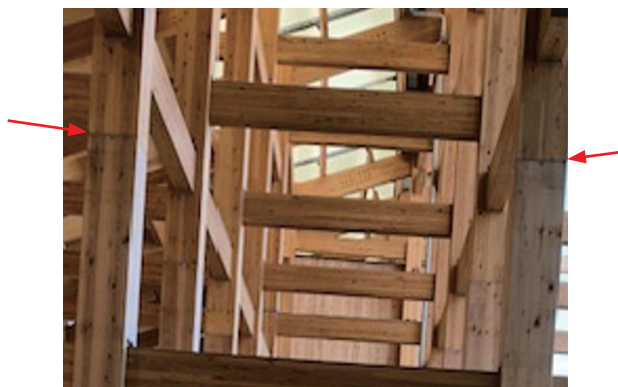
さらに問題は、円形リンク材料の「集成材」。建設業者さんが指摘される通り、雨にさらされる外周部分の繋ぎ目は黒く変色しています。「雨が染み込みカビが生える…」、これが集成材・ベニ

ア板の欠点だそうです。それから、「抜き工法」とは、神社の建築のようにきっちりはめ込んでいると思っていましたが、くりぬい穴にずさずさに差し込んでいるだけ、これで大丈夫かな? 「半年なら持つのか」。

見学後のミーティングで、経済産業省の技官が「終了後には建築材や家具などとしてリサイクルする予定で募集しています」というが、これは無理。かつて、大阪万博協会はリサイクル化を否定していましたが…。

また、マスコミで話題になった円形リンクの雷対策。

「金属製の手摺りが避雷針に代わります」と説明。「それは危険だと止めたのでしょうか?」と言うと、「いいえやめてません。雷情報が出たら観客は全員下に降ろしますから」と。ただ、そのためのエレベータやエスカレーター・階段の数は少ないけど…。まあ～天候不順の日は行かないことかな。



変色した円形リングの一部（筆者撮影）



これが、
避雷針？

避雷針の代わりにするという手摺り（筆者撮影）

大阪湾の中心に位置する「夢洲」。ここは、松井一郎元大阪市長や吉村洋文大阪府知事が言う「負の遺産」ではありません。夢洲は、埋め立て途中の廃棄物最終処分場で、護岸工事だけでも3200億円の初期投資・市税を注ぎ込んでいる市民の資産です。



大阪港湾局提供資料に筆者が加筆

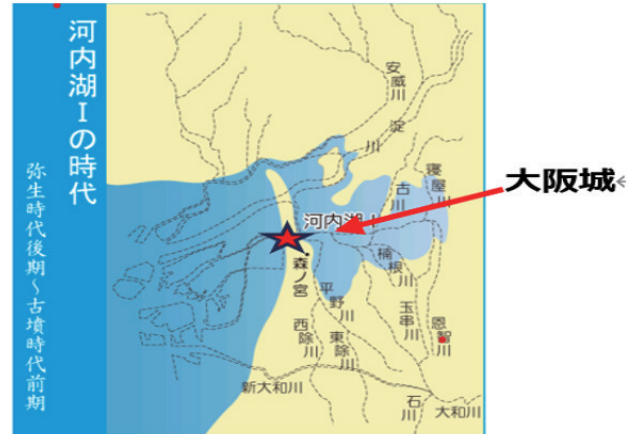
能登地震でも問題になっていますが、自然災害が多発する日本で、一旦災害が発生すると、当該自治体は、災害ゴミの処分場確保に苦心します。こういう情勢の中、大都市大阪で最終処分場を自前で持っていることは実に貴重なことです。この延命は行政トップの責任です。

それとは真逆に、埋め立てを無理やり中止させ、万博・IR・カジノへの湾岸開発に汲々としているのが現大阪府・市政です。しかし、これは破綻します。問題は明確です。

問題の第一は、夢洲の軟弱地盤です。

元々、大阪平野は軟弱です。1800年前の大阪は海の中でした。しっかりした地盤・岩盤は、上町台地です。

2007年、中央大通りを東西に切った地盤地図が出版されました。これを見ると、上町台地は、150m下まで岩盤がしっかり繋がっていますが、

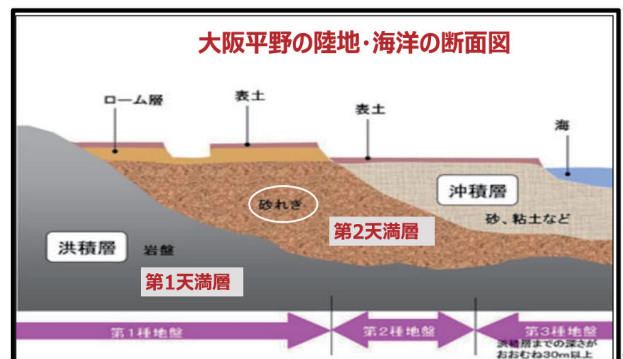


約1800~1600年前
天満長柄の砂州が北へ延びきって、河内平野（河内潟）への海水の流入をさえぎり、河内潟は淡水湖となった。

（出所）「古代大阪の変遷」水都大阪ホームページより

平野全体には軟弱層が無数に広がっています。豊臣秀吉は、この岩盤の北上に大阪城を築城しました。その大阪城横の安定地盤に大阪府庁舎がありました。その庁舎を、海の中のWTCビルに持っていこうとした知事が橋下徹氏です。この無謀な移転計画は、東日本大震災時の長周期地震動で大揺れし、「防災拠点にはなりえない…」と、全面移転はあきらめ、現在は、咲州庁舎として、一部市民部局が業務しています。

大阪平野の地盤は、岩盤層、その上に砂混じりの砂礫層。海側まで広〜くお豆腐のような沖積層が30mの海底まで積み上がっています。ここに盛土されたのが、大阪平野です。従って、平地の地盤は緩く、ビル建設などでは多量の水が湧き出ます。



（出所）「地盤とは」フロンティアワールドコンソーシアムホームページの画像に筆者が加筆

この海の中の沖積層に杭を打って、ゴミのために造成したのが、咲州、舞洲、夢洲です。それぞ

れ5m～10m以上と、水深が違い、深い程お金がかかります。

夢洲は390haと面積が広く、「瀬戸内海環境保全特別措置法」の規制による大阪湾内最後の埋立場ですから、たくさんのゴミを埋め立てられるように、海底から30m下まで、サンドドレーンと言う砂杭を打って、地固めしていますが、ごみを入れる目的なので地盤沈下は織り込み済みです。N値5の夢洲2区3区では、高層ホテル建設は無理です。それでも建てるなら80m下の砂礫層まで1本1億円のくい打ちが必要です。

問題の第二は土壤汚染です。

夢洲は汚染物を投棄する場所なので、当然土壌は汚染しています。埋立終了後商業施設などに使う場合は、「土壌汚染対策基本法」に基づく対策が必要です。さらに夢洲は、1991年に制定された「ストックホルム条約」で製造・使用が禁止され厳格な管理が求められている「PCB・ポリ塩化ビフェニル」の保管場に指定されていますから、当然PCBが投棄されています。

夢洲は4区画に分けられ、それぞれ埋め立てたごみ質や管理者が違います。



大阪港湾局提供資料に筆者が加筆

1区は、管理型最終処分場で立ち入り禁止地区です。大阪市・八尾市・松原市内の、家庭や事業所から出たごみや燃え殻などが過去30年間で1800万トン、そのうち焼却灰やススなどダイオキシンや水銀混じりの超有害ごみが860万トンも含んでいます。今でも、排水のPHが高く、メタンガスなども排出されているので埋立終了ができません。従って、埋立終了部分であっても50cm

の土を被せた表土しか使えず、杭も打てません。この危険な1区の南半分が、「万博」会場に延長されています。83本のガス抜き管からは、今もメタンガス・硫化水素・一酸化炭素が毎日2トンを噴出、北東には、3リットル袋入りのPCBが3千袋保管されていますが、この上を万博の駐車場にしています。



PCB汚泥を積めた袋（筆者撮影）

2区が万博会場、3区がIR・カジノの場所ですが、2・3区には、産業廃棄物の浚渫土砂を過去30年

濃度計量証明書

大阪市港湾局 監

資料提供元 2019年12月18日 調査区分 別表取付
 採取期間 2019年12月18日 2020年1月21日
 採取場所 大阪府大正区

発付No. N0098197-01(1)-15R 1/1
 発行日 2020年1月21日

委託者 株式会社 建設株式会社
 委託内容 大阪府大正区 大正区 大正区 大正区 大正区 大正区

件名 大阪港湾局管内産業廃棄物(分別)調査報告書(01-12)

この調査を受けた材料について、計量の結果を次の通り説明いたします。

調査対象 大阪府大正区町丁丁目C-P-1-0

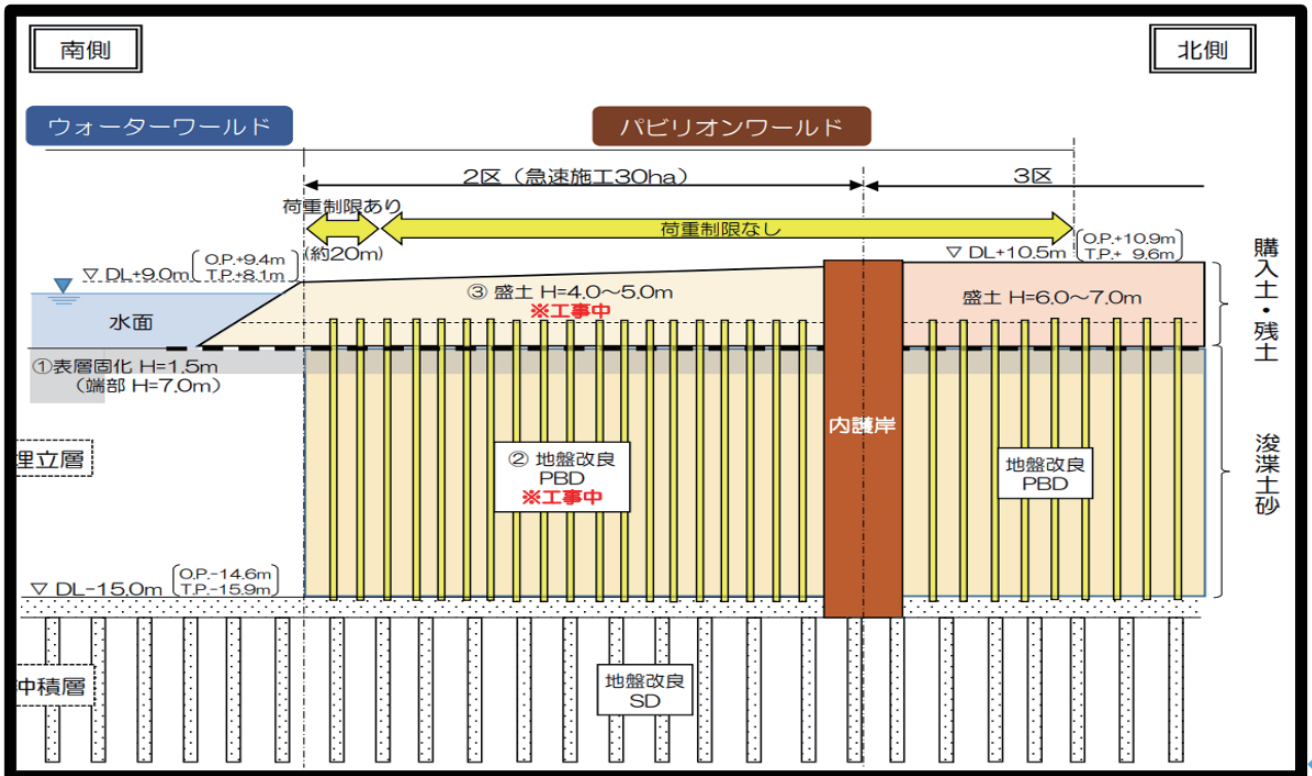
測定項目 13項目 13項目

計量の対象	計量の結果	規定値	単位	計量の単位	計量の単位
1. 全重量	0.000	0.000	mg/L	mg/L	0.000
2. 全重量	0.000	0.000	mg/L	mg/L	0.000
3. 全重量	0.000	0.000	mg/L	mg/L	0.000
4. 全重量	0.000	0.000	mg/L	mg/L	0.000
5. 全重量	0.000	0.000	mg/L	mg/L	0.000
6. 全重量	0.000	0.000	mg/L	mg/L	0.000
7. 全重量	0.000	0.000	mg/L	mg/L	0.000
8. 全重量	0.000	0.000	mg/L	mg/L	0.000
9. 全重量	0.000	0.000	mg/L	mg/L	0.000
10. 全重量	0.000	0.000	mg/L	mg/L	0.000
11. 全重量	0.000	0.000	mg/L	mg/L	0.000
12. 全重量	0.000	0.000	mg/L	mg/L	0.000
13. 全重量	0.000	0.000	mg/L	mg/L	0.000

含有量試験を拡大してみると：

- 含水量 49.2% で**半分は水**
- 総水銀 2.4mg/kg= 2.4ppm
最終処分場排水基準0.005ppmの**480倍**
- PCB 2.8mg/kg=2.8ppm
最終処分場排水基準0.003ppmの**993**

大阪港湾局提供資料



大阪万博協会提供資料

間で6千万ト、その上に乗せる建設残土と購入土が4千万ト、合計1億トンも埋め立てています。

このしゅんせつ土砂6000万トが大問題です。海の底や川底のドロを定期的に掬って船の運行をしやすいするための浚渫ですが、ドロですから半分が水で工場廃液などが混ざりPCBや水銀・フッ素化合物など、有害な重金属が含まれています。

夢洲開発には、「瀬戸内海の環境を守るための法律」の厳しい規制がかかっていますから、夢洲からの排水は基準値に達せない限り一滴も大阪湾に流せません。これが夢洲の泣き所です。大雨が降っても、ポンプで大阪湾へ汲み出せ…、とはいかないのです。

この2区・3区の地盤に、プラスチックの水抜き菅を75万本188億円の市税を使って施工し、水抜き・地盤固めがされていますが、これも「ごみをたくさん埋めるため」で、地盤沈下は織り込み済みです。港湾局の提供資料では、過去30年間で4.7m沈下しています。

4区は、すでにコンテナヤードとして運用しており、コンクリート殻と購入土で造られ、ゴミは埋め立てていません。

第三番目の問題は、夢洲の根本的な問題です。

① 輸送手段の渋滞・混雑

夢洲に上陸するには、1本のトンネルと1本の橋の二つのルートしかありません。ここに、コンテナヤードのトラックと2024年4月からはIR工事のトラックなど6000台が入ってきます。さらに、万博開催時には一日15万人～22万人の来場者を輸送する往復9500台のシャトルバスが集中し、道路は必ず渋滞します。

2023年8月、お隣の「舞洲」で開催の「花火大会」では、15000人の参加規模でも、橋とトンネルは「渋滞で動けなかった」とタクシードライバーの話です。

観客輸送のもう一つの手段が地下鉄中央線です。

「来場者輸送具体方針」では、一日22万7千人の来場者の55%・124千人を地下鉄で輸送する計画になっています。中央線は6両編成で定員880人。万博期間中は2分半に1本走らせるので1時間で24本、万博来場者だけしか乗らないことを前提に、乗車率150%としても1時間に28800人、124千人運ぶには4時間半もかかる計算です。もし、事故が起これば電車はストップします。万博



30000A系の外観デザインイメージ

(出所) 大阪メトロホームページより

開催の半年間一般市民排除など不可能です。

② 自然災害に無策

夢洲は、人工島ですから避けるものがなく、自然災害に弱いのが弱点です。実際、2023年6月4日の豪雨では、夢咲トンネルが冠水し、10時間通行不能になりました。万博開催時期の5月～10月は、台風シーズンです。2018年大阪を襲った「巨大台風」では、巨大なコンテナが木の葉のように吹き飛ばされました。万博のプレハブパビリオンや大屋根リンクがこれに耐えられるでしょうか？



2018年9月、吹き飛ばされたコンテナ (筆者撮影)



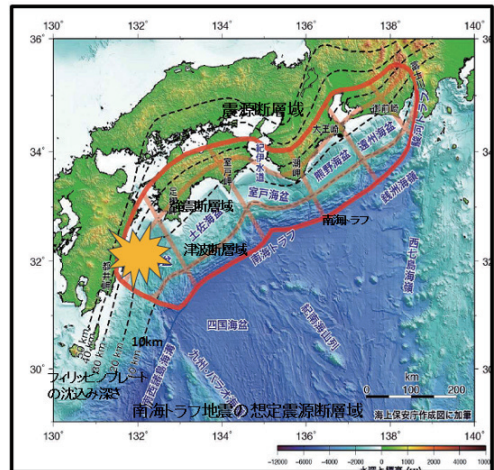
9/4 18:19 大阪府大阪市住之江区

(出所) 「9月4日、近畿地方に暴風や高潮をもたらした台風21号について」 ウェザーニュースホームページより

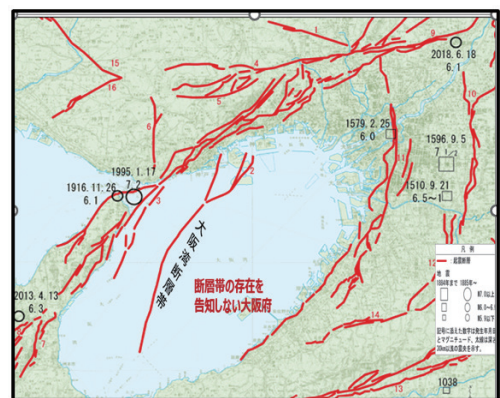
そして、30年以内に必ず発生すると言われる「南海トラフ型巨大地震」や、大阪湾内に存在する「大阪湾断層帯」がずれを起こせば、わずか30分で4mの津波が大阪を襲い、夢洲自体が沈没・崩落の危機にさらされます。しかし、万博協会は「3日分の宿泊場と食事を準備する」程度の対策しか持っていません。避難計画は11月22日現在、「これから作る」と言う状況です。安全性の担保できない万博に、子どもたちの招待は危険です。

③ 万博会場の簡易地盤対策

万博会場の構造物の地盤は、実験中の「浮き基礎工法」と言う、建物の重さに相当する土を取り除いてその穴に浮かせて建てる工法です。従って、長期的建造物は無理だし、2階建てになると説明されています。話題の350億円の円形リンク、「レガシーとして残す」などとても無理ですし、終了後原状復帰のための撤去費用も大問題です。水辺部分に施工する50mの鋼管は、引き抜くときは泥まみれで、専門家は「ドロで絞められているので抜けない…」と言われます。諸外国のパビリオンの建設も、原状復帰の費用負担が問題になるでしょう。



(出所) 「南海トラフで発生する地震」地震本部ホームページより



(出所) 田結庄神戸大学名誉教授提供資料より

そして、基礎インフラである下水管や上水管の施工計画は公開されていません。しかも、その計画容量は約8万人分です。15～20万人分の汚水は、下水管を通して一旦夢舞大橋近傍の貯留槽に貯めて、順次此花下水処理場に送ります。つまり、

万博会場予定地における建築物基礎形式の選定と土質調査

基礎形式	浮き基礎（直接基礎）	杭基礎
イメージ図		
概要	「建物荷重 $P \leq$ 基礎部排土重量 W 」とすることで、建物建設に起因する圧密沈下・不同沈下の発生を防止する。	GL-55m 付近に存在する支持層への杭基礎とすることで、圧密沈下・不同沈下の発生を防止する。 ※万博閉幕後、杭は撤去
対象施設	建物平均重量 4tf/m^2 程度* (S造平屋、2階建に相当) *基礎掘削深さ2.5mを想定	建物平均重量 4tf/m^2 を超えるもの (S造3階建以上に相当)

(出所) 大阪市建設局「万博会場予定地における建築物基礎形式の選定と土地調査」より

2億円のトイレも、高速道路PAのように、結局貯蔵タンクに一旦貯める構造です。

一方、大阪市税 788 億円が投入されている 3 区の地盤は、134 か所のボーリング調査結果を基に、液状態の場所を明確にし、「セメント固化方式」を採用します。これは、土壌に直接セメントと固化剤を加え、ガラガラかき混ぜ、地下 5m 程度にセメントの塊の層を造ることで、不等沈下を防ぐと言うものです。ただし、MAICE・会議場やホールなどの地下は、13m 下まで固めます。こうして、3 区には一応、地盤対策や「上下水管」の施工など衛生面の準備もされています。



大阪市・大阪府土地推進局・大阪港湾局「IR 区域における液状化対策に関する検討結果」に筆者加筆

「いのち輝く未来社会のデザイン」の関西万博は見学してもなお心配です。

④ まだまだ膨らむ万博経費

国民の批判的的は、万博開催費の 2350 億円です。国・大阪府市・経済界が 1/3 ずつ負担しますが、この 2350 億円に、現状復帰費用が入っているか不明です。

こっそり使われている万博関連「インフラ整備 15 項目 1129 億円」。負担内訳は、国 150 億円、



9月定例会提出の 令和6年度 一般会計補正予算(第2号)
総額 62億4,200万円

万博来場サポートデスクの設置	3,843万円
能登半島地域の子どもの大阪観光への招待	4,606万円
医師の勤務環境改善の支援	59億2,353万円
新モビリティ推進事業	6,586万円
児童生徒の万博会場への招待	5,205万円
宿泊税率改正に係る準備経費	1,831万円

能登半島地域の子どもたちを 大阪・関西万博と大阪観光へ招待

能登半島地震で被災した子どもたちを万博と大阪観光に招待。未来社会を体験することで将来の希望につなげてもらうとともに、観光を通じ大阪の都市魅力を発信。

寄付者：個人、法人、企業
 寄付(ふるさと納税等)
 ↓
 大阪府
 ↓
 招待：子どもと保護者(ペア)
 大阪観光+万博

(出所) 大阪維新の会「維新タイムズ」(Vol.3)より



(出所) 国土交通省「2025年に開催される日本国際博覧会(大阪・関西万博)に関するインフラ整備の概要」より



大阪府 10 億円、OTS (大阪港トランスポートシステム) 160 億円、そして大阪市が 7 割近い 806 億円です。国の事業なのに大阪市民負担が 7 割とは理不尽です。万博協会は「道路、橋、上下水道整備など、レガシーは大阪市に残りますから」と言いますが、これこそ万博を口実にした IR・カジノのためのインフラ整備だと物語っています。

さらに、国が公表した「万博関連費用一覧」を見ると、9.4 兆円もの関連インフラ整備計画で、不要不急な土工工事です。

最近配布された「維新タイムス」では、62 億

円の補正予算のほとんどが万博関連費用。注目は「能登半島の子ども万博招待事業の 4600 万円」。招待相手は、輪島市・珠洲市・穴水町・能登町の子どもたち。でも、穴水では未だ給水車で水を運んでいる所もある。こういう費用は、その改善にこそ充てるべきです。

万博は税負担の傷の浅いうちに中止するべきです。わかりやすい理由の一つが「夢洲地下鉄」です。万博を強行し、地下鉄を開通すると、半年間の万博終了後、IR 開業までの約 5 年間、地下鉄は乗客なしで走ります。「赤字は大阪市の一般会計で補填する…」と、意見交換会での当局の話です。万博で儲けるのは土建屋さんとイベント屋さん、赤字のつけは大阪市民に回すのです。

基本的問題の万博運営費の原資である入場券販売状況では、2400 万枚の売り上げ計画に対し、11 月 22 日時点で 730 万枚の売り上げ。「赤字になったらどうする？」の問いに、「赤字の事は考えない」と無責任なこと。

IR 事業の認定を受け、市民の「裁判」は第二段階に入りました。市有地を超格安で賃貸する地

方自治法違反・随意契約による談合疑惑で、生み出されている市民にもたらされた損金約 1000 億円の返還を、元・現市長らに求める監査請求に

470 名の市民が参加、それに続く住民訴訟を 12 月 16 日に代表 3 名で提訴しました。

(ふじなが のぶよ)